

# 赤と肖像画の展示



絵を描くといふことは、自分を苦しめる。長い文章で、4年前の大作、3年時に夜な突発的に涙を浮かべながら隣り書きした私の「ポエム」だ。今が、明日には間違になつてしまふのでは、自分の製作によって、不安と無力感を覚えながら、「それでも描こう」と奮起し、右の抽象的な暗い背景に示された。四歳の拙い声の女らしい音声も、彼の「ポエム」に展示される。冒頭にこのボヤキつたりもした。冒頭にこのボヤキを持つてきたのは、「私は、こんなことを考える人間だ」と誇示するためでは決してない。この時の、激しく自分で酔いしれる瞬間にと、このボヤキをふと冷静に読み返し、「だからこれは！」と急にばかばかしくなる瞬間が、常に交互にやつくなる。その後、そのジレンマと繰り返し向き合っていくことだ。私が制作をする中で、一体どのような意味を持つか、そのジレンマがどう制作に

# 絵を描くこと

で恥ざしておけるだけの、自分の生きることの虚しさを唄つてゐる。その虚しさと対照しながら死闘とこの歌の思ひを作品へ昇華させた。赤色の英語表記は「the color called live」とした。意味は、物語の全体に網に思ひついた。感覚をつつけ、四角い棒の中でうごめく赤色は、様々な物体を通して循環する深い色の色がそこそこ、実際に動きを見せるのが、赤の流れは真ん中にいくと笑。如止まり、空洞になる。しかし眞ん中の空洞は、「何のないもの」として私たちの心の中では、アメーラーが読む二番目にはみえてゐる。赤い肉体は死んで空洞になるが時間は依然存在し続け、それが止まらない。それのはくらいい肉体を持つてこの一世で生きるということは、少しきつて私のことにして存在していたことは、まぎれもない眞実だった。

A large, rectangular wall hanging made of a highly textured, reddish-brown material, possibly dried leaves or bark, arranged in a grid-like pattern. A single, glowing red lantern hangs from a chain in the center of the composition, casting a warm light. The background is a dark, solid color.



左からThe ClashのLONDON CALLING、Sweet Slag、!!!!(Chk Chk Chk)のジャケット

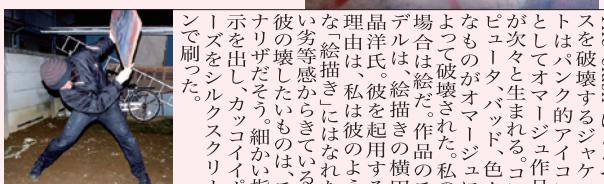
# 白田那智



# 赤と肖像画の展覧会

$$\begin{array}{r}
 2016. \\
 3.17 \\
 (\text{t h u}) \\
 - 4.5 \\
 (\text{t h u})
 \end{array}$$

# 肉体を喪失した先の、無常の世界を探る実験 The clashのLONDON CALLING ム 山下洋輔のピアノ炎上





## 赤と肖像画の展示

尾崎豊の生涯の終え方はこれ以外にな  
いと思えてしまって、夭折した人の生涯  
を体感してみたくなる。

34 そしてここにも、人生を誰よりも早  
くアガリしたクレイジーな奴が。彼の本  
名は向井理むかし、みがく。美術予備校  
に通つ画家の卵だったが、十九歳で交通  
事故に遭い亡くなる。『地球人生はすば  
らしい』といつ詩画集が出ていた。彼の  
葛藤もまた、深い深い闇の中へと落ちて  
いき、それが遂に戻らなかつた。

35 日本の「popグループ」globeのKEIKO  
マーク・バンサー 36 そして小室哲哉。  
思春期の頃はglobe以外は聞いていな  
かった。制作のやる気向上のため洋楽  
を漁り始めたのは大学から。小室の根  
暗が全面に出たアーティストで暗い歌ば  
かりで、奥深く薄青い沼に浸かること  
で、中学校の狭い世界で巻き起こる同  
調圧力に耐えてきた。

36 globeの中でも特に好きな「FACE  
PLACES」のMVには、瞬だけ登場す  
る名もなき男の子。カメラを向けられ  
て照れる彼かどても可愛い。この百人  
には入れたかつた。

37 このあたりには日本人が集まつてゐる。  
38 小説家の田中慎弥。2012年に芥川賞  
を受賞。芥川賞に数回ノミネートされ  
ながらも中々受賞まで至らなかつた経  
緯から記者会見にて都知事閣下と東  
京都道民位のためにもひいてやる  
と挑発的発言をしたことなどで有名。この  
記者会見を見つかけに彼の興味を持ち  
取材番組を見たところ彼のトゲトゲしい発  
言の中から垣間見える人間の弱さが愛  
おしく感じた。ただ、小説はまだ読んだ  
ことがない。

39 小説家の田中慎弥。2012年に芥川賞  
を受賞。芥川賞に数回ノミネートされ  
ながらも中々受賞まで至らなかつた経  
緯から記者会見にて都知事閣下と東  
京都道民位のためにもひいてやる  
と挑発的発言をしたことなどで有名。この  
記者会見を見つかけに彼の興味を持ち  
取材番組を見たところ彼のトゲトゲしい発  
言の中から垣間見える人間の弱さが愛  
おしく感じた。ただ、小説はまだ読んだ  
ことがない。

40 小説家繫かりで、堀辰雄。基本小説を  
あまり読まないが、最近やつと『風立ち  
ぬ』を読んで感動した。本物の小説家の  
描く言葉には、その二言一句全てが宇宙  
のよう広がりを帶びていた。私が宇宙  
いくら節子を愛したか?といつてそれは  
は本人にまったく関係のないことだ」と  
いう一節が心に残つている。

41 高校生の時にハマつた『小説家の筒  
井康隆』時をかける少女のようだシユ  
ブナイルものは筒井の描くほんの一部  
で、彼の描く世界の本質は、血も涙もな  
いエゴグロの展開ばかりで『問題外科』  
といつ短編小説にて高校生の私は「力  
月トライアフリ」それからは読んでしな  
い。

吉株的存在の彼はもう何十年も仮出で望み続ける「ラスト」では主役のアーティストが崩壊し、広い空の下酒を飲む束の間の自由であるか、彼の背負う過去は辛く、これからの方もまた辛い。それでも何十年ぶりの酒は旨い。彼は幸せそうにそれを飲む。

良い人シリーズから、黒人ミュージシャンがどう続く。

52 ジャストランバベット奏者のマイルフティービス。トランペット独特の派手さ、音色は彼の音楽からは感じない。狂気も少ない。その落ち着いた音色は、「白分」を魅せるためのものではなく、賞者に取り添つて、どこか懐かしい原風景のようなものを見せてくるよう。すごく好きなわけではない。だけど彼の見る世界にすごく興味がある。

53 1950年代の黒人歌手、ファッツ・ディビス。原始笑顔でピアノを奏で歌い上げる。ロングスリーブのリトルリチャード。ダイナミックなピアノの弾き方でとにかく楽しめた。2人のピアノ弾きから、日本人X-JAPANのYOSHIKI。樂器をがむしゃらに破壊する彼。

54 ピニアーストの山下洋輔。ピアノのアツツリチャード、破壊のヨシキから来て、ピアノを燃やすパフォーマンスを行った彼が続く。オノヨーコのカットピースにも続いている。

「破壊」のキーワードから、ベースを壊すジャケットで有名なThe Clashの四人。ミック・ジョーンズ、トップ・ヒットマン、ポール・シムノン、ジョー・フラマー。

61 リトルリチャードから続くアメリカのロックシーンを追うように、エリビス・プレスリー。**62** チャップ・ベリーもいる。アメリカロックは人から教わった。

63 ジャニース・ジョプリンもいる。性シンガーとして、ローリン・ヒル。まさかの2回目の登場。25は大人にたつたローリンヒルに対して、「天使にラブソンダを2リタマ役の姿で再登場。

65 アメリカ人のミュージシャンからギリス人のスキッフルロックの第一人者ロニー・ドネガン。マンゴエリー同様、スキッフルなので明るい歌をひそら唱う。それも一人で楽しそうに。再び画面の中心、ドントアレックスのところに戻り、今度は上にいく。

★大好きな映画「スタンダード・パイ・ニー」  
「1985」の4人、**66**ジャマイアンなのが  
崎豊なのかなその絶妙なラインをいくべき  
太好きリバーフェニックス、**67**主人公の  
ウイル・ワイトン、**68**「リー・フレッド  
マン、**69**ジエリー・オコネルやはり  
こでも「早く死ぬ」存在がいる。弱虫が  
人公を強い男に変えた「フェニックスは  
本物の英雄になってしまった。男4人が  
集まるど「仲間の死」が欠かせないト  
トワードになるのか。  
**70**ホール・マッカートニー。  
・スター。**72**ジョン・レノン。  
ジ・ハリスン・ジョン・レノンの他殺。  
死が自ら選んだものでなくとも、自  
己死に対する何かの因果が見え隠れ  
するのは、大衆がジョンを英雄視する  
が故、無意識のうちに、その期待に答  
えるがごとく、彼自身が死ぬことを選  
んだのではないかと考えてくる。百人  
の肖像を語る中で度々繰り返す死  
のフレーズ。これを書いていると、死  
ぬことの美しさをもつと追求してみ  
たくもなるが、生きて、ロックを続  
る最高に力がある男の肖像がビート  
ルズの斜め下で今からと待つてい  
るが、その前にキンクスがいた。  
**74**レイ・デイヴィス  
ヴィス。**76**ミック・エイボリー  
ヨン・ダルトン。敢えて特筆する  
と言えば、キンクスはダサくもカッコ  
良くもないということ。彼らには、「  
リンクス」と「トーンズ」やはたまた「マン  
ジャー」のモミアゲのような、表に目  
える「スタイル」が存在しない。  
表層的なスタイルに頼らずにエンターテ  
イングストーンズやはたまた「マン  
ジャー」のパンクスタイルでキメなが  
ら人生への反発をするセックスピースト  
ルズなんかよりも、「生」や「目に見え  
る現世のもの」に対する危うさや頼  
りなさをキンクスは人一倍感じている  
のではないかと思う。だからあえて普  
通の表層で音楽をしているのか。  
次に登場するは我らがミック・ジャガー。  
きたいところだが、まだもつたいるが。  
甲本ヒロトと  
喜島昌利。一応

彼らボーカル＆ギターの、男同士が、やつくといひつのバンドスタイル、ミックとキースから受け継がれることから、彼らがそこにいる。80 ブライアン・ジョーンズ 81 ティーラー 82 ロン・ウッドがおののように並び、83 キース・リチャーズの暖色が84 寄り添うミック・ガーラを惹き立てる。ローリングストーンズをあまり知らないものの、ミックのビジュア対してはかなりの尊厳を抱いていた。私にとっての彼は、まさに志向的トレード。80年代のミックも、80年代ミックも、今のミックもたまらない。若いから別の彼の顔に表れない。彼は、ジーンズのホツレでもあるし、学書のかじ臭さでもあるし、樹齢の木でもある。長年、自他ともに彼し続け、今なお生き続けている偉いミックに敬意を表します。

★96 アメリカの戦争映画「フューリー」(2014)の、下つ端軍人ノーマン役のローガン・ラーマン。ドイツの戦場にて戦車フューリー号に「死」した副操縦士に代わり途中から乗り込む。対戦国のドイツ兵を何の躊躇もなく殺すクルーザーフラットピット)に「人を殺せない」と嘆きながら必死に抵抗する。ノーマン以外は皆殺しに慣れている。人を殺せないノーマンただ一人、戦場では「特殊な存在として描かれる。その感覚の違いが今と真逆であることは言うまでもなく、国という大きな枠が人の価値観を無理やりねじ曲げる。それが戦争であり国家の恐ろしさなのか。戦争とは何か。国家とは何か、すごく考えさせられた。

★97 アメリカ戦争映画における「特殊」な存在が続く。時計仕掛けのオレンジの、スタンリーニキュー・ブリック監督作、ベトナム戦争を題材にした「フル・メタル・ジャケット」(1987)から映画前半時に登場する微笑みテフことレナード役のヴィンセント・ドノフリオ。訓練兵として劣る彼は教官のハートマンから侮辱の言葉を浴びせられる。同級生からもリンチに遭い才能が開花し、自らに才能を信じ、ハートマンを殺し自身も撃つて死んだ。死ぬ直前は、自信が常に満ちあふむところから一変し、自信に満ちあふれた恐ろしい顔つきを見せる。訓練教官を撃ち、射撃の才能に目覚めた訓練兵の自分自身も撃ち殺す。自らの命を犠牲にしてまでも、戦争への反発を遂げた彼の生涯はまるで役目を果たしたかのようで、その死には満足感があった。それ黄色いマークもそこににある。